

# 一般質問その後 追跡 No.1

## コミ・プラ休館の月曜日も開館を

コミュニティ・プラザ休館日の月曜日も、町教育委員会の職員は通常勤務している。月に何回か開館し、利用者の利便性を図れないか。

2018年6月定例会 川合 弘人

答 弁

## 隔週開館の運用も考えられる

【教育長】コミュニティ・プラザの活性化、多くの町民に親しまれる施設という視点から、例えば試験的に、昼間のみ、隔週の月曜日に開館するという方向で運用してみるということも考えられる。

その後

## 隔週で「月曜開館」、3月まで試行

10月から2019年3月まで、コミュニティ・プラザを試行的に隔週で「月曜開館」する運用がスタートした。第1・第3月曜日、登録団体の利用を受け付ける。利用できる時間帯は午前9時から午後5時まで。

試行運用する日は11月5日・19日、2019年1月7日・21日、2月4日・18日、3月4日・18日。12月は館内改修工事のため閉館となり、1カ月間利用できない。

町教委は「利用状況をみて、今後の運用を判断したい」としている。問い合わせはコミ・プラ（電話62-7900）へ。



コミュニティ・プラザの隔週「月曜開館」試行を伝えるチラシ。入り口に張られている

## 花アプリはどうなった

国の交付金を受けて、民間企業に発注し、一応の完成を見た花アプリのその後の進展は。

2018年6月定例会 五味 高幸

答 弁

## 協力・支援はしたい

【町長】事業は民間企業と協議継続中であり、町にとっての有益性を見極めた上で、町費の投入はない形での協力支援はしたい。

その後

2018年8月

## 町は事業化の中止を決断

町は議会側に、「(事業継続を委託した)IT企業から将来の事業化を断念したいという報告があった」と説明。これを受けて町は、花アプリ事業の中止を決断したことを明らかにした。「事業化に対するマーケティングなどの調査が不足。ものにならない事業に手を付けてしまった。行政の収益事業への取り組みは慎重であるべきだった」と反省の弁。

IT企業は、断念した理由を①ランニングコストが大きい②類似の花検索アプリがある③花が好きなのは望遠レンズ付きの一眼レフカメラを持っている④課金モデルは困難⑤有料アプリを使う人は20%⑥広告スポンサーの獲得が困難⑥保守料を賄えない—と説明。また町は、花アプリを開発した企業が「森のオフィス」から撤退したことも明らかにした。

## 全員協議会での町関係協議・報告事項【7月～9月】

※( )内は説明者

### ◆7月18日(第4回全協)

- ①空き家対策計画(小池建設課長)
- ②予算の専決処分(伊藤総務課長)
- ③町総合防災訓練の概要(同)
- ④ふるさと納税での誤った事務処理(同)
- ⑤自殺対策計画の策定(上原住民福祉課長)
- ⑥シティプロモーション事業でのお宝調査(伊藤総務課長)
- ⑦防災ガイドブック、暮らしの便利帳の配布(植松副町長)
- ⑧その他(植松副町長)

### ◆8月21日(第5回全協)

- ①9月定例議会への提出議案の概要(植松副町長)

- ②地方財政状況調査(決算統計)の概要(財務課財政係・雨宮専任課長)

- ③地方創生交付金事業の実施結果報告(総務課企画統計係・小林専任課長)

- ④花アプリ事業のその後(名取町長、植松副町長)

- ⑤その他(脇坂教育長)

### ◆9月19日(第6回全協)

- ①9月定例会の追加議案 人事案件2件(植松副町長)

- ②カゴメ生活ファームの職員募集(名取町長)

- ③特別養護老人ホーム入所判定事務の変更(上原住民福祉課長)

- ④その他(植松副町長)